

特集 地域福祉コーディネーターってどんなことをしているの？

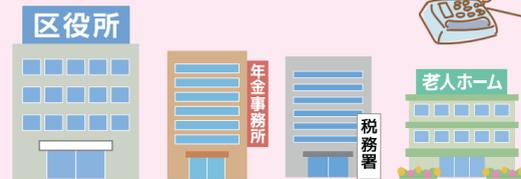


人と人、場所と場所をつなげることで、地域の困りごとを無くしたい。

地域福祉コーディネーターとは、住民や団体、関係機関と情報交換や連携をしながら、地域の中に支え合いの活動が広がっていくようにお手伝いする「地域のつなぎ役」です。住民等からの相談を受け、地域の人々や関係機関と協力して困りごとの解決に向けて一緒に考えていきます。また、地域の住民が一人ひとりの困りごとを地域全体の課題として捉え、住民同士が協力して解決できるような地域活動の立ち上げや運営の支援を行っています。

地域の困りごと

地域の人々と、地域の困りごとに気づき、解決に向けて一緒に考えています！



例えば…区役所など、相談の内容によって、関係機関につながります。

地元で気になることがある…

台東区のためにやってみよう！



STEP 5 行動あるのみ。協力者を探して地域つながり会議を開催しよう。

STEP 6 地域つながり会議の開催

地域をつなげる場、地域情報や地域課題を共有する場として、参加者の皆さんが一定のルールの下、自由に意見交換をする会議です。地域福祉コーディネーターが、進行役、記録係として参加しています。

STEP 7 話し合いを重ね、台東区内に家族会が立ち上がりました
ステップ バイ ステップ Step By Step 「一歩一歩」

2020年11月1日に立ち上がった、ひきこもりの家族の会です。正式名称は、台東区地域家族会【Step By Step】で、参加者の皆さんが話し合い、名称の決定に至りました。Step By Stepには、「一歩一歩」という意味があり、家族の想いが込められています。

参加ご希望の方は、台東社協コーディネーター担当までお問い合わせください ☎03-5828-7556

今回こんな相談が…

地域の中に家族会を立ち上げたい！



STEP 1

そこでコーディネーターが動き出しました。

うーん

STEP 2

まずはどうやって進めていくかを検討しないと



STEP 4

地域に密着した会にするために情報探しをしよう。



STEP 3

そこで台東社協の職員間で打ち合わせをすることに。



今回家族会立ち上げに携わった方々

家族会代表者 今井 信之さん

台東区在住。企業に勤務しながら、家族会の立ち上げ・運営に携わっている。2020年11月1日に立ち上がった台東区地域家族会【Step By Step (略称SBS)】の代表者。



活動しようと思ったきっかけは、同様の体験をした際に、何らかの解決策を求め模索していたことです。家族の疲弊、徒労感がわかるので、自分にも何か貢献できることがあるのではないかと考えていました。そんな折、社会福祉協議会(以下、社協)を紹介されました。社協から区外のひきこもり支援のNPO法人を紹介され、そこで「台東区に家族会を立ち上げてほしい。」と言われ、区内在住のご家族と引き合わせていただきました。何度かの地域つながり会議の後に、自分が進行役を担い、2020年11月1日にSBSが立ち上がりました。

今回、協力してくださったお寺さんに感謝しています。そして、自身の勤務する企業がボランティアに対して前向きであり(家族会当日は、ボランティア休暇を取得しています)、企業の社会貢献モデルとして定着することを願っています。

家族会協力者 菅原 耀さん

台東区在住。浄土真宗厳念寺副住職。社会福祉士、精神保健福祉士、上智大学グリーンケア研究所認定臨床職士の資格を有する。家族会の立ち上げ時から協力者として関わっている。



コーディネーターから、地域の中で家族会を作りたい人がいるという話を聞きました。それまでのお付き合いからコーディネーターを信頼しておりましたので、協力させていただくことにしました。

今回の「地域つながり会議」の感想としては複数回の話し合いの中で、ご家族の想いが伝わってきました。人と人が気持ちをかち合える場は重要であると感じ、その「場」として寺をお使いいただけることをありがたく思いました。

今後、参加者が増えていった時にも、参加者や、その「場」の個性を大切にしながら参加しやすい場になっていけばいいと思っています。運営側が無理をしすぎないことも重要かもしれません。活動を気長に続けていけますし、いざという時に支え合うことができると思います。

家族会参加者の声



地元の台東区で同じ悩みを抱える人達と出会えて有難いです。年齢を重ねてからでも、こうして新しいつながりを得て語り合えることに感謝しています。また会の運営に尽力して下さる今井代表と、素晴らしい場を提供して下さっている厳念寺の菅原さんに、あらためて感謝いたします。

まずは楽しく集い、皆が少しでも元気になれるといいと思います。話しても話さなくても居心地の良い場所でありたいです。その上で、新たな気づきや有効な情報や必要な支援が得られたら尚よいです。同じ様でいて一人一人違う悩みとどう向き合っていくのか、それぞれのペースでつかんでいきたいです。

台東社協 はっぴいが行く

台東社協のオリジナルキャラクター、「はっぴい」をご存じですか？「はっぴい」は、平成26年、もっと台東社協を知ってもらいたい、親しみを持ってもらいたいという想いから公募で生まれました。

なんで「はっぴい」っていうの？

お祭りに着る「はっぴ」

幸せを意味する「ハッピー」

この2つの言葉から名づけられました。



今回はそんな「はっぴい」の名付け親の一人、田添さんにお話を聞きました。



田添 映里さん
知的障害の子供たちに関わりたいたいの気持ちから、区内のNPO法人「ほおずきの会」に入職。現在は相談支援業務に従事している。私生活では3児の母。

●「はっぴい」の命名に応募したきっかけは？
一人目を出産して事務所に挨拶に行った時に、たまたまはっぴいの名前募集のチラシを見て、応募しました。

●「はっぴい」にはどんな思いを込めましたか？
誰もがわかりやすい単純な名前、親しみやすく、見た目と一致しているほうがいいな、と思って考えました。なによりも赤色がかわいくて、半被着てるんだあ…というのが印象的で、幸せという言葉がふさわしい気がしました。カタカナや英語よりひらがなのほうがいいかなって。

●「はっぴい」が選ばれたときの気持ちは？
お知らせは、自宅で子どもを抱っこしながら受けました。なんかもう「ホントですか？いいんですか？」って感じでした。

●これからの「はっぴい」に期待することは？
最近では地域のお祭りなどもコロナで中止になってしまい、淋しいです。早く元通りになって、はっぴいにもたくさん会いたいですね。うちの子どもたちもはっぴい大好き。お揃いの半被着て写真撮るとか、これからも何かの形で関わるといいなと思います。

